

e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2021

十勝は冬の始まり

やっと朝日が出てきました。今日は出てこないかと心配しましたが、7時になってグラデーションから明るくなり鳥のさえずりも聞こえてきました。寒さが一段と増し、マイナス5℃。道路も地べたもガンガンに凍っています。先日までは例年より暖かく降るのも雨でしたが、終盤雪に変わり、さっと畑は白く化粧しました。遠くの日高の山々も白い帽子をかぶりリーンと立っています。

ちょっといま心配なのは、寒さや雪の訪れが年々遅くなっていること。先日各国のリーダーが集まり温暖化の話合いがされましたが、メの報告書は金のことでまとまらず・・・

牧場の冬支度も整い、クリスマスまでに一面に雪が積もるのを待ってます～



活動のお知らせ

第18回資源循環型肉牛生産シンポジウム2021 終了報告書作成中
来年1～2月 飼養技術研修会 開催検討

NEWSばか読み

- 21年度輸入チーズ 2年連続減 コロナ禍で外食需要減
11/2:国産に置き換え
- 農研機構・タカラバイオ 豚熱検査でPCR簡便化2h判定開発
11/3:判断即決
- 高騰ショック 燃料資材飼料肥料高騰 生産現場影響大11/4:ジワリ
- RCEP 来年1月発効11/4:効果わからず進む
- 農林水産省予算 有機産地拡大に支援事業拡充11/4:25%達成は
- ゲノム編集した品種改良食品の実用化拡大11/5:知らず知らずに
- 子実コーンの栽培 北海道で急拡大 転作有望品目に
11/5:実用化期待
- 9月通販 食品増加に転じる 巣ごもり需要定着
11/5:需要の多様化進む
- 湧別町 町、JA、企業でバイオガス会社設立 家畜の糞で再エネ
11/5:協同
- 鹿児島オクラ部会 ソルガム、そば組合せでアブラムシ防除
11/6:減農薬
- 政府 条件付きで海外実習生受入開始11/6:いつまで
- 米国産ジャガイモ 生鮮輸入急増11/7:恒常化懸念
- 農林水産省 ベトナムにJAS食品加工施設支援11/8:普及化
- 農林水産省 コメ作況指数101に引き上げ11/10:意図性
- 鳥インフルエンザ 欧州で10月以降相次ぐ
11/10:世界パンデミック
- 農林水産省 フードテック(肉代替食品、昆虫飼料等)に事業支援
11/10:
- 秋田 鳥インフルで14万羽処分 今季初11/11:これが始まり
- 東工大 植物由来の廃プラで飼料生産仕組を開発
11/11:普及に期待
- 日生協 宅配事業で初の2兆円超え コロナ禍で個配増
11/12:実績維持
- 鹿児島で鳥インフル疑い 鶏卵最大産地11/13:抑えきれず
- 農林水産省 酒米減産継続必要 需要減響く11/13:飲もう
- COP26開催 石炭火力投資削減11/16:危機感膨れる
- 砂糖消費激減 工場閉鎖で揺れる産地北海道
11/17:これを機会には止めて
- 今秋 外食チェーンメニュー値上げ相次ぐ 輸入原料高
11/17:国産化に
- 貿易収支 3ヶ月連続で赤字 自動車減産原油高11/18:日本の経済
- 入管庁 外国人労働者の無期限検討 農業者も11/19:多民族
- 配合飼料安定基金 大幅高騰で残高急減 補正予算化
11/19:何とか乗り切り
- クボタ インドの農機具大手買収子会社化 有望トラクター市場
11/19:
- 農林水産省 コメ余りで21万t減産必要 4万ha大幅転作へ
11/20:飼料に
- 道の駅 地域再生担う拠点進化 22か所で10億円11/20:有望市場
- 農林水産省予算 国産飼料購入に交付金11/22:自給率の根本
- 農林水産省 輸出促進法改正し品目別団体認定
11/23:コントロール化
- ブラジル20年森林消失 長野県の大きさ 不法伐採
11/23アマゾンが消える
- JA計根別 廃用牛に独自奨励金 生産抑制に11/23:乳量制限現実化
- 国産果実10年前から2～4割高 生産減と高級化11/24:高い理由
- 大根白菜 重量野菜が3～4割安 温暖肥大と需要減
11/26:鍋物使おう
- 10月外食 売上連続でマイナス 客足戻らず苦戦11/26:低迷化
- タイ日本産サツマイモ超人気調理法焼き芋11/29:こんなこと
- 農地2020年 5900ha減 400万ha割れ11/30:徐々に

東京直近NEWS(11/29 Shi-REPORT)

ホルス

ホルス相場は横ばい状況。
出回り頭数が少ないことから相場高値維持の要因。
販売状況は量販店低調も外食の回復と絶対頭数の不足から季節節位のカタロース、外食向けロイン関係、定番の切落としと引合維持。
輸入物不足からの高値もあり、問い合わせは多い。
例年だが、年内ギリギリまで切落としは余裕ないが、クリスマス以降のパーツの荷動きに注視。

経産牛

経産牛相場はやや下落基調で落ち着いてきている。
販売状況は外食向け原料の間合せが増加してきている。
特にヒレは輸入アイテム不足しており、引き合いが強く冷凍在庫も一気に不足状況に。バラも一定数維持し、カタロースも順調。
赤身モモウデが一部では余剰傾向で切落し需要弱い。
挽き材は鈍く、輸入品の高騰と不足基調も国産牛挽き材は鈍い。
輸入物の不足感は継続予測から、同行に注視。

1.日本畜産学会第129回大会講演要旨

1)パラレルシンポジウムⅢ黒毛和種の子牛飼養管理と生体・生体情報の活用(続)

前号に述べた演者の発表は、黒毛和種子牛の哺育・離乳期、育成期の飼養技術におけるビタミンC,D,E,や鉄などミネラルの重要性が強調されています。

2)関連学会・研究会(1)第81回飼料懇談会

(1)日本飼養標準・肉用牛の改訂状況について(田島清、農研機構)

今回、日本飼養標準 肉牛は第6次改訂で、家畜改良増殖目標の策定を念頭に、牛肉の輸出拡大、環境負荷低減、暑熱対策などが盛り込まれています。

(2)成長曲線と養分要求量の見直し状況について(廣岡博之、京大)

黒毛和種牛は遺伝的改良効果とされる体型の大型化でも出荷月齢は変わらず大型化の径を辿っています。エネルギーやタンパク質栄養の要求量が見直され、放牧推進に対応する改訂では消化過程を考慮したメカニスティックモデルの概念が必要です。

(3)生産性向上に関連した内容の拡充について(樋口幹人、農研機構)

飼養標準の改訂における「生産性向上」には肥育期間の短縮もエネルギー効率向上の観点と飼料生産の水問題や地球環境保全の角度からの視座も重要です。

3)関連研究会 日本産肉研究会第28回学術集会シンポジウム「みどりの食料システム戦略の先にある食肉生産の将来」

(1)「みどりの食料システム戦略」の概要について(寺西梨衣、農水省畜産局)

2021年5月に策定された戦略の背景には食料生産力の向上とカーボンニュートラルなどの環境負荷軽減の国際的課題への日本の技術革新力による対応があります。戦略の具体的な取り組みはこのイノベーションの活用で

持続的農業生産体制を構築することが課題です。

(2)有機畜産は本当に環境にやさしいか?(堤道生、西日本農研セ)

飼料効率の低い牛から蛋白源を摂取すること自体はGHG排出などで環境負荷が大きく、有機畜産は肥育日数が長くGHG低減には繋がりませんが、有機的管理の導入は環境負荷低減と生産効率向上策が課題で資源循環型有機畜産の価値は高く重要になります。

(3)「暮らしの真ん中にオーガニックを」(清野由起子、(株)ビオ・マーケット)

ビオ・マーケットは有機農業の普及を図る目的でオーガニック商品を取扱っています。有機JAS認証の商品を主に扱っていますが有機農産物・畜産物の拡大には需給のバランス、慣行品との価格差の説明が重要です。

(4)本当にヘルシーな畜産物とは!? (小谷あゆみ、農業ジャーナリスト)

これまで取材してきた但馬牛(日本農業遺産)の地域循環システム、宮崎の繁殖放牧による地域再生などの事例をみると消費と生産のフェアな関係構築、経済・社会・環境を同時に満たす畜産のあり方、畜産・食肉生産システムの方向性は大規模より地域の特徴を活かせる小規模体制です。

2.畜産技術798号,2021.11

1)黒毛和種肥育牛の生産性に及ぼす暑熱環境の影響(前田友香、宮崎県畜試)

宮崎県の6-9月は温湿度指数THI 68を越す暑熱期となり、黒毛和種の肥育後期牛の飼料消化率低下など生産性低下への対策が必要になります。

2)肥育期間を短縮した黒毛和種の枝肉格付に差はなく、温室効果ガス低減にも貢献(阿部剛、家改セ 芝原)

黒毛和種牛の肥育期間を29か月→26か月に短縮するとBMS値が1.2低下しますが枝肉成績に有意差はなく、温室効果ガスのCH4は約14%削減しました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2021

基調講演「持続的な畜産物生産を目指して～みどりの食料システム戦略～」 全4回シリーズ① 北海道農政部生産振興局畜産振興課主幹 叶 拓斗氏

持続的な畜産物生産の在り方について～みどりの食料システム戦略を踏まえて～ 令和3年10月28日 北海道農政部畜産振興課 叶 拓斗

SDGsと環境をめぐる課題と海外の動き 【地球の限界(プラネタリーバウンダリー)】 地球の限界(プラネタリーバウンダリー)とは、人類社会が持続的に繁栄できる範囲を指し示す概念である。...

SDGsと環境をめぐる課題と海外の動き 【自然資本とSDGs(持続可能な開発目標)】 SDGsの7つのゴールは持続可能な開発の目標の土台となる。自然資本から生まれ出される様々な恩恵の存在が不可欠である。...

SDGsと環境をめぐる課題と海外の動き 【各国の環境政策】 ① EU 「Farm to Fork」農場から食卓まで戦略 ② 米国(農務省) 「農業イノベーションアジェンダ」

畜産物の国内生産を巡る状況 【国内外での畜産物消費】 畜産物の消費は増加傾向にある。畜産物の消費は増加傾向にある。...

畜産物の国内生産を巡る状況 【我が国における畜産物生産の温室効果ガス(GHG)の排出】 畜産物の生産は温室効果ガス(GHG)の排出に大きく貢献している。...

畜産物の国内生産を巡る状況 【畜産物もたらす環境負荷】 畜産物もたらす環境負荷は、気候変動、水質汚染、森林破壊、生物多様性の喪失など多岐にわたる。...

畜産物の国内生産を巡る状況 【みどりの食料システム戦略】 食料・森林・水産物の生産力向上と持続的イノベーションの実現。...

我が国の畜産物生産の特徴 【国土に占める農用地面積】 我が国の国土面積は約378万haであり、農用地は約100万haを占めている。...

転載・再利用は固くお断りします